

令和 7 年 3 月 1 1 日

環境総合研究所の 国際関連業務について

令和 6 年度川崎市環境総合研究所所有識者懇談会



● 報告の構成

1 国際関連業務の位置づけと取組の方向性

2 今年度事業の実施結果と今後の予定

- (1) 川崎国際エコビジネスフォーラム
- (2) 海外からの研修・視察受入
- (3) 国際業務に係る情報発信
- (4) 都市間連携プロジェクト ～途上国支援・優良事例～



1 国際関連業務の位置づけと取組の方向性

○「環境総合研究所調査・研究等業務計画」

①「国際貢献」（基本理念3）

公害克服の過程で蓄積された環境技術を基に**海外都市の環境改善**に取り組む

②「地域社会への還元」（基本理念1）

国内外の都市や研究機関等と連携した研究・取組の成果を地域の環境改善に役立てる



① 優れた環境技術を活用した国際環境協力の推進



本市の優れた環境技術等を活用して**発展途上国**が抱える様々な環境課題の解決に向けた**国際貢献**を推進し、**市内事業者の海外事業展開に繋げる**。

② 地球環境改善に向けた海外都市の優良事例の情報収集



優良事例を有する海外都市と相互連携を図り、脱炭素等に関連する**情報収集**を行う。その内容は関連する**環境施策や具体的取組に還元**する。

環境総合研究所の国際関連業務について



2 今年度の実施結果と今後の予定

(1) 川崎国際エコビジネスフォーラム

●概要

市内企業の優れた環境技術や国内外の
先進的な環境施策の情報交換の場

●テーマ

都市と産業のサステナブルな共生に向けて
～次の100年に向けた川崎とアジアの都市を
つなぐグリーン戦略～



環境総合研究所の国際関連業務について



●パネリスト（7名）

※ 5年ぶりに海外都市からパネリストが参加



マレーシア国
ペナン・グリーン・カウンシル
ジョセフィン・タン・メイ・リン 氏



インドネシア国パスンダン大学
デニ・ルスマヤ 氏



公益財団法人地球環境戦略研究機関
(IGES)
エリック・ザスマン 氏



JFEエンジニアリング株式会社
高橋 元 氏



日本ミクニヤ株式会社
田中 優司 氏



川崎市地球温暖化防止
活動推進センター
庄司 佳子 氏



川崎市環境局環境総合研究所
盛田 宗利

環境総合研究所の国際関連業務について



●当日の様子





●実施結果

- ・会場参加者： **54名**
- ・YouTube閲覧回数： **計2,280回**（2/28時点）
内訳）日本語 2,104回、英語 167回
- ・今後の「川崎の環境技術を活かした国際貢献」や「次世代（若者）との連携」等をテーマに、今後の100年に向けた活発な意見交換を行い、市の取組も含めて国内外に発信できた。

公開約2か月で
環総研チャンネル
歴代視聴回数
第2位！

●今後の予定

- ・令和7年度は、国際業務の動向にあわせ、エコビジネスフォーラムの一つの区切りとなるようなかたちで開催する。
- ・令和8年度以降は、IGES等と連携し、フォーラムに代わる新たなイベントのかたちを含め、令和7年度中に検討する。



(2) 海外からの研修・視察受入

- ・ 環境省やJICA等と連携し、主に途上国から研修や視察の受入を実施
⇒ 発展途上国の自治体職員等の能力向上等による国際貢献



台湾の研究
機関の視察
(6/27)

環境総合研究所の国際関連業務について



●受入一覧

	国・都市	人数		国・都市	人数
①	モンゴル	9	⑨	中国	1 9
②	スロベニア	2	⑩	欧州 1 5 か国	1 5
③	台湾	1 3	⑪	マレーシア・ペナン	2
④	インドネシア・バンドン	5	⑫	台湾	3
⑤	台湾・桃園	4	⑬	インドネシア・バンドン	1
⑥	タイ	1 2	⑭	タイ・バングラディシュ	4
⑦	マレーシア・ペナン	1 3	⑮	マレーシア・ペナン	6
⑧	中国・寧波	1 5	合計：1 5 件		1 2 3

●今後の予定

- ・令和 7 年度以降も、引き続き、環境省やJICA等と連携しながら、
研修・視察の受入を実施していく。

環境総合研究所の国際関連業務について



(3) 国際業務に係る情報発信

- ・『川崎市環境技術情報』サイトやXを活用した情報発信を実施
- ・サイト：18件、X：37件の記事投稿（1/31時点）

約11,000
回表示！



タイ・バングラディシュ研修（12/3）



100周年記念ポスト（7/1）

●今後の予定

- ・令和7年度以降も、**上記サイトやX等を活用した情報発信を実施**



(4) 都市間連携プロジェクト

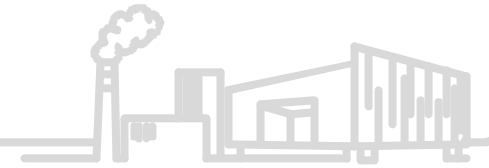
◆途上国支援（2件）

①環境省 インドネシア河川水質改善の都市間連携プロジェクト

- ・ 2018（H30）年、インドネシア政府が日本国政府に、チタルム川の河川水質改善の支援を依頼
- ・ 本市がバンドン市と覚書を締結していることから、環境省より依頼があり、2019（H31）年から都市間連携プロジェクトに参加
- ・ バンドン市の河川水質改善を目的に現地職員への研修や技術セミナー等を実施



ごみが浮かぶチタルム川

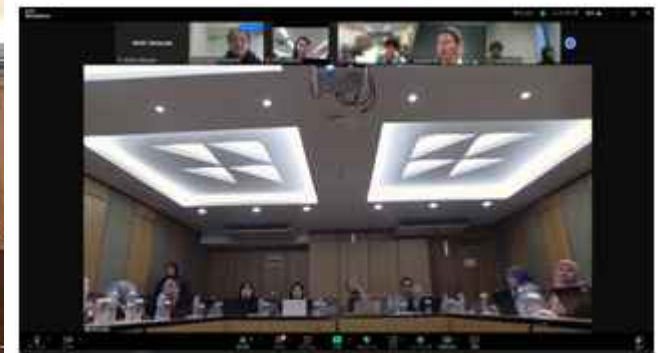


①環境省 インドネシア河川水質改善の都市間連携プロジェクト

- ・ 令和6年度は、バンドン市内河川の排水管理をテーマとしたオンラインワークショップ「チタルム川支流チパモコラン川排水マスタープランの中間評価」を開催 (2/27)
- ・ 令和7年度以降も、**現地職員を対象にワークショップ等を実施予定**



チタルム支流河川の
排水マスタープラン (R3)



オンラインワークショップの様子



②JICA・草の根技術協力 マレーシア国ペナン州の持続可能な水資源管理に係る都市間連携プロジェクト

- ・ ペナン州とは、エコビジネスフォーラム参加を通じて信頼関係を構築
- ・ 慢性的な水不足や水質悪化等が課題となっているペナン州から本市に依頼があり、水資源管理能力の向上や企業の環境技術の紹介等を目的に、プロジェクトを実施
- ・ 事業期間は令和5年4月～令和7年10月



ペナン州庁舎からの眺望

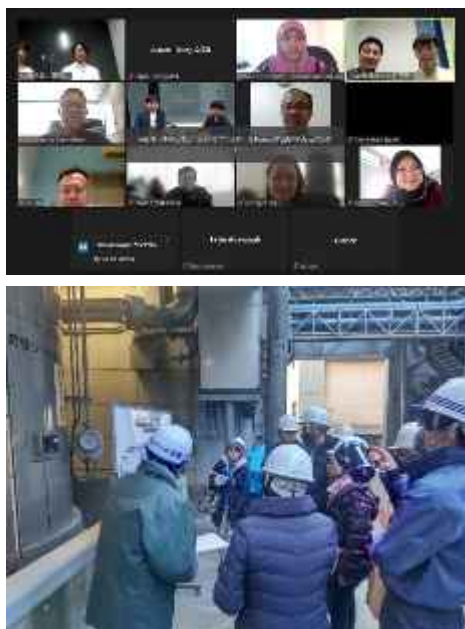


キックオフ会合（R5年度）



②JICA・草の根技術協力 マレーシア国ペナン州の持続可能な水資源管理に係る都市間連携プロジェクト

- ・ 令和6年度は、研修（8月オンライン講義、12月訪日視察）とワークショップinペナン（2月、市内関連企業5社参加）を開催
- ・ 令和7年度は、訪日研修（5月）、ペナンで最終会議（9月）予定



研修の様子



ワークショップinペナンの様子



◆優良事例収集（１件）

③海外都市における気候変動と健康に係る共同研究プロジェクト

●参加の経緯

- ・令和４年度に英国ウェルカム財団が公募した『**気候変動と健康に係る研究**』にIGESが応募するにあたり、川崎市も参加
- ・令和５から３か年の期間でIGES等と共同研究開始

研究名：海外都市との気候変動政策と健康上のコベネフィット推進のための研究プロジェクト

●参加のねらい

- ・海外都市の視察を通じて、以下についての知見を得て、本市の施策や取組に活用すること

①熱中症の軽減

②自然を基盤とした解決策（NbS : Nature based Solution）

環境総合研究所の国際関連業務について



●主な参加団体

地球環境戦略研究機関（IGES）

【日本側】

自治体：**川崎市**、八戸市、新潟市
研究機関：北海道大学、九州大学、
アジア大気汚染研究センター等

【海外側】

自治体：**オースティン市**（米）、
パリ市（仏）
研究機関：テキサス大オースティン校等

●事業スケジュール

R5

- ・全体共有
- ・庁内PTを構築
⇒環総研と建緑、DKC

R6

- ・海外視察
⇒アメリカ（8月）
⇒フランス（10月）

R7

- ・まとめと成果の活用
⇒施策や取組に活用

環境総合研究所の国際関連業務について



●視察概要

・アメリカ視察



日程 令和6年8月14日（水）～23日（金）9泊10日
都市 ワシントンD.C.、テキサス州オースティン市
職員 3名（環境局環総研2名、川崎区DKC1名）
視察先 環境保護庁、国務省、市役所、大学、同市内施設（環境関連施設、公園・緑地）等



・フランス視察



日程 令和6年10月6日（日）～13日（日）7泊8日
都市 パリ市周辺
職員 3名（環境局環総研2名、麻生区DKC1名）
視察先 パリ市役所、パリ市内公園、気候健康科学研究所、環境関連の民間企業等



※視察に係る費用は、全てプロジェクト実施主体のIGESが負担



アメリカ視察

-ワシントンDC.、テキサス州オースティン市-



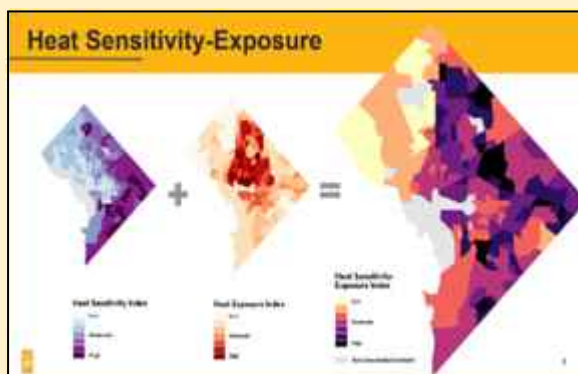


●ワシントンD.C. ～気候変動対策、熱中症対策～

- ・ 米国北東部に位置するアメリカ合衆国の首都、人口約60万人

「KEEP COOL DC」戦略を策定（2022年）

①市民の安全を確保する取組



ヒートマップによる
重点地域の抽出

公平性の観点から、「暑熱」と「弱者」の分布を重ね、**優先取組地区を明確化**



避難施設の設置等

- ・クーリングセンター開設
- ・ボランティアによる高齢者の安否確認

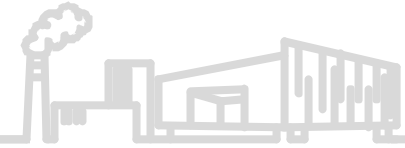
②市内の気温を下げる取組

緑を活用した暑さ対策

- ・街路樹による木陰づくり
- ・木陰にベンチを設置



木陰は
気温が 1.9度 低く
快適！



●ワシントンD.C. ～NbSによる街づくり

NbS : Nature-based Solutions 「自然に基づく解決策」

自然の力を利用し、生態系と人間いずれにも利益をもたらす方法で社会的課題を解決する

【フランクリンパーク】

- ・ダウンタウンの中心部に位置
- ・2021年に環境に配慮した設計で再整備
- ・豊富な木陰、ベンチ多数

＜NbSの活用＞

雨水貯留機能を有するレインガーデン



【ヤーズパーク】

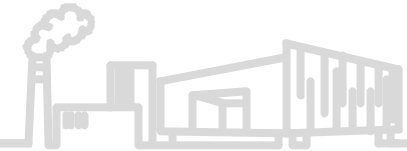
- ・アナコスティア川ウォーターフロント公園
- ・2010年に整備 民間財団が運営

＜NbSの活用＞

豊富な緑量や、親水施設があり、市民が涼めるクールスポットとなっている。



環境総合研究所の国際関連業務について



●オースティン市 ～気候変動対策、熱中症対策～

- テキサス州の州都、人口約96万人、8月の気温は40度を超える日も
- 過去に人種で居住区が分かれており、現在も収入格差や緑の分布に影響
- 気候変動対策の中心は「公平性」

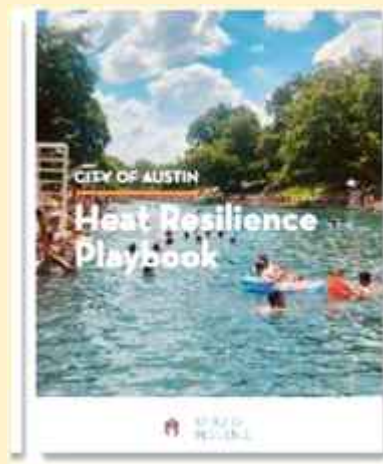


現地の天気予報

熱中症対策



ヒートマップによる
暑熱リスクの可視化



ヒートプレイブックの作成
(暑さ対策の普及書)

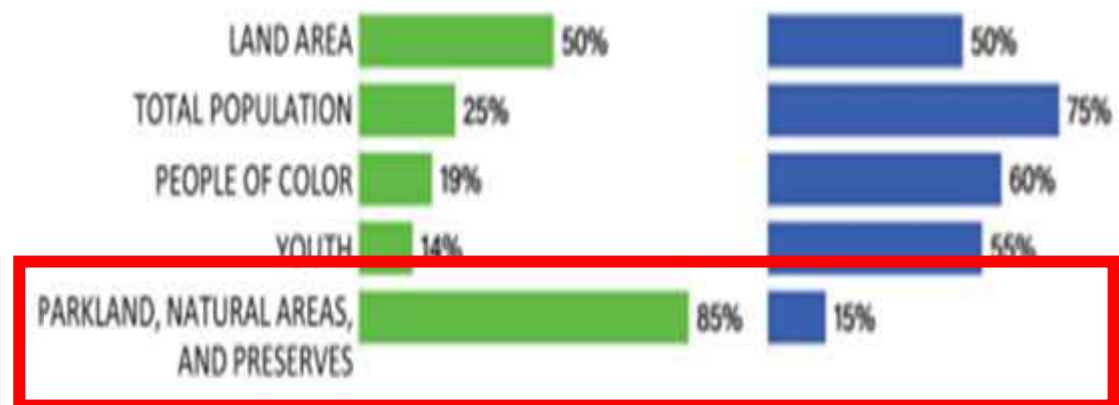


レジリエンスハブ等の設置
(熱波や寒波時の支援施設)



●オースティンのNbSの取組： ～住民投票で借金してでも、自然保護・樹木を増やすことを決定

- **公平性**の観点から、貧困層の居住区（東側）に優先的に植樹
- 樹木教育、みどりに関するNPO官民パートナーシップを展開
- 有償ボランティアの活用（社会的弱者等を優先的に雇用）
- その一方、緑の育成や管理に予算と人員が不足という課題も



貧困層の居住区（東側）にみどりが少ない



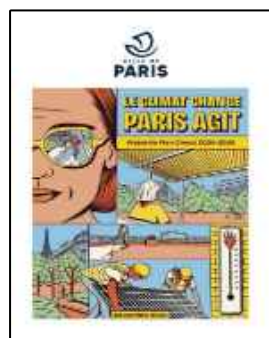
パリ市視察





●パリ市の特徴、気候変動施策

- 人口約215万人、面積105.4km²
- 夏季平均気温は東京より低いが、近年は熱波で42.6度を記録
- 市民は古い集合住宅に居住し、エアコンが普及していない



2024.11

優先事項：

適応策によりパリ市民を守る

+ 公平性（どのような市民も
置き去りにしない。）

⇒ 400のアクションプラン作成



市役所での
意見交換風景



適応に関するキーワード

① 『クーリング』

(温暖化に対する涼む場所を増やす政策)

② 『グリーンング』

(洪水に対する緑地を増やす政策)



●パリの熱中症対策 ～市民が涼める場所「クールアイランド」～

- 公園等の緑地、教会、水場などが対象
- 公平性の観点から、全ての市民が歩いて7分以内にアクセスできることが目標（日中は目標がほぼ達成）
- エアコンがない家庭が多く、夜間の熱中症対策が課題

- ① 公園、庭園
- ② 教会、宗教施設
- ③ 図書館
- ④ 美術館、博物館
- ⑤ 福祉施設
- ⑥ 噴水など水浴びできる場所



クールアイランドの分類

公園

水浴びできる噴水



●みどりによるNbSの取組

～スクールオアシス：学校校庭のクールスポット化～

- ・パリ市の学校校庭はアスファルト舗装が多く、熱中症リスク高
- ・校庭のアスファルトを剥がし、**緑化改修**や**日よけ設置**
- ・学校校庭をクールスポットとして**地域に開放**



緑化改修を施した学校校庭



2023年時点で市内130箇所に展開



まとめ





●まとめ ～欧米の都市の共通点～

- ・ 気候変動対策で「公平性」を重視
- ・ ヒートマップを用いた重点地域の抽出（暑さの見える化）
- ・ 暑熱対策等へのグリーンインフラの積極的な活用
- ・ 多くの部署が連携し気候変動対策を推進

●今後の主な予定

- ・ 令和7年度は成果のまとめと庁内等での共有を実施
⇒成果を活用した取組の実施に向けて調整していく。

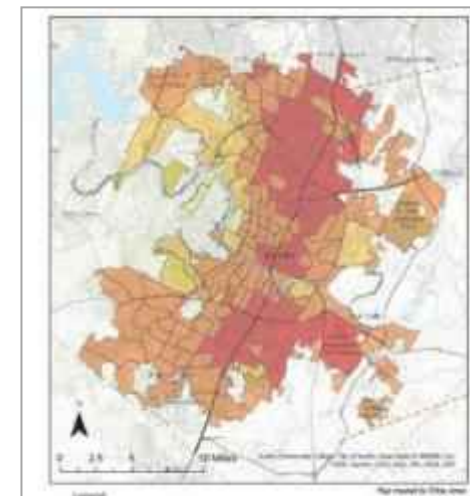


● 成果の活用（案）

◆ 熱中症対策

① ヒートマップを活用した暑さの見える化

- ・ 熱中症に関する地域リスクを可視化するツールの作成
- ・ 熱中症の要因となりうる地域リスク、リスク軽減要素となるクールスポットを重ね、重点取組地区を抽出
- ・ 庁内における効率化・効果的な熱中症対策の推進、市民の外出時の暑さリスクの注意喚起に活かしていく



地域のリスクを可視化

② 市民向けワークショップ等の開催

- ・ 気候変動が更に進むことで生活へ及ぼす影響を共通のイメージとすることができるツール（啓発冊子）の作成
- ・ 市民が気候変動の生活への影響を自分事として捉えることができる機会を創出として、ワークショップを開催
- ・ 気候変動に適応した市民の行動変容を促す。



市民向けワークショップの開催



◆緑政事業

③ NbSの考え方に基づいたみどりの取組

- ・公園整備等で、雨水貯留や樹冠被覆率を高める植樹等、グリーンインフラを意識した管理と両立した設計
- ・NbSの活用必要性について、市民向け講習会やイベント等で啓発活動



レインガーデン（富士見公園）

④ 今後の公園緑地等の市民協働の取組

- ・米の有償ボランティアの事例や、全国都市緑化かわさきフェアを契機とした+aの新たな協働の取組等を踏まえ、今後の市民協働のあり方に活用



市民への講習会



米の労働力開発における公平性を優先した市民保全部隊